明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可　（日刊）日曜及祭日の翌日休刊　明治四十二年九月十九日（日曜日）　第二百十八號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

雜報

●韓鐵經濟の前途（四）

（某當局者の談）

以下交通上より韓國鐵道を論じ次に既說鐵道六百四十一哩か四十二年度より五十年度に於て擧ぐべき收入を豫想せんとす元來韓鐵は吾我經營に係り之を事實上よりするに韓鐵は即ち大陸鐵道の一部を組成せる日本の鐵道と稱すべく韓國東北海岸鐵路の基點は即ち大陸交通に於ける日本の發起點たるに外ならず所謂京元線並に淸津間島線の如き將來其布設を完うすべく想ふに亞細亞大陸及び歐洲鐵道に對する日本の位地上日韓兩國沿岸に於て日本海を隔て相對する南北の二發起點を定むるを要す即ち大陸の北部に連絡すべき敦賀と淸津を起點とする線と大陸中部に聯接すべき下關釜山を起點とする線是なり然るに現時の狀態は前者は未定に屬し後者と雖も僅に下關釜山間の連絡船に過ぎずして釜山新義州間の鐵道と雖も鴨綠江及び安奉線狹軌の爲め大陸鐵道の接續線としては不具的鐵道に過ぎざるも今や安奉線は改築に着手し鴨綠江又架橋に着手せり尙韓國內豫定線も着々其計畫を進めつゝあるもの〻如く平南線の如きは既に之が布設に着手せり尙近き將來に於て大陸各地の諸線に對し我敦賀及下關を起點としては一は淸津より間島を斜斷して吉林に出で更に伯都訥を經て齊々哈爾に對し淸國目下の豫定線たる齊々哈爾黒爾根線に聯接し一は安奉線を延長して外蒙古を通過し遠く庫倫を經て「トロイツコスカヤ」に到り貝加爾地方に聯接し得る線路の開設を見るを得て大陸交通設備の完きを得爰に於て始めて韓國鐵道を經濟上より論ずるの價値を生じ來らん（未完）

●公群間道路改修請願

公州日本人會にては過般評議員會を開き公州と江景及群山間は地勢上密接の關係を有するに拘はらず事實に於て商業取引の動きは全く仁川の勢力範圍に歸し公州在留民は幾多の不便を忍んで强ひて現狀を脫すること能はざるもの主として公州群山間交通機關の設備完からざるに依ることと其の原因の一なるべく今や公州小井里は本年中にて新道路の開通を見んとして鐵道は連絡することを得べきも驟て江景群山方面は何時車馬の往來を見るに至るべきか右は公州を本位とすれば最も急施設を要すべきものにて或は其節に於て既に其の必要を認め挾く豫算に計上着手計畫のことならんも速かに其目的を達すべく措置せられんことを請願すとの請願書を決議し別に道路改修速成を要すべき理由（一）經濟の關係（二）交通運輸上の關係（三）其他の箇條を擧て統監に請願す可く十二日群山理事官迄該請願書を提出せり

俳句

●第六回月次集　すみれ會

▲初秋　むら判

（結、馬子野鳥多遠山二十天由利白進）

◎秀逸

初秋や草刈る野邊の朝のいろ　四樂
初秋や左遷の卿の馬をろき　闇坊
初秋や山路をいそぐ旅やく者　弓糸
初秋や晝寢する子の小かひ巻　秋花
初秋の垣根に赤しからすうり　凸坊
初秋や食事の進むきのふ今日　弓糸
初秋や親子に着する針仕ごと　昇月
初秋や武士のたち寄る繩暖簾　荻水
初秋や肥馬の嘶く高麗の野邊　六坊
今朝の秋足につめたき野路哉　極月

◎

病し士の漸く癒ゑて今朝の秋　精華



第五十五席　桃川燕玉演

藤井右門に大勢で布團を押冠せぐる〳〵卷にしやうとするから 右「コレ〳〵五月蠅から止せと云うに、鬼は御免だ、コレ〳〵何をする」と拂除けやうと云ふ內に、何時が何枚となく布團を右門の頭の上から押被せ、矢庭に其處へ押伏せる、跳除けやうと云ふ上へ一時に飛蒐つたのが茂山彌左衛門今村源六、內藤源治郎「コレ天命を知つたか、神妙にしろ、藤井右門御用だ」と云ふ矢庭に押へ付けて、到頭手取り足取り高手小手に括した、如何なる劍術の先生でも、不意に油斷を討たれましては致方がない、數枚の布團で押付けて居りましたのだから手も足も働く事が出來ない、所を到頭ぐる〳〵卷にふん縛つてしまひ、縛たと云ふ。直ぐ右門に於ては、其儘釣臺に載せて筒井大和守の役宅へ之を護送をした。尤も右門と云ふ人も豪傑だ、もう是で亂暴た所が所詮いかぬと見切を付けましたものと見ぬ、縛られまする、後はもう平氣なもの、奉行所へ參りまするまでグーグッと高鼾をかいて寝てしまつたと云ふ。所が天運盡きては仕方のないもの、山縣大貳は急に用事が出來して江戸へ取つて返して、八丁堀の長澤町の宅へ歸つて休息をする所へ、表裏を取圍んだ筒井大和守の手付與力同心、一同に御用上意と言つて亂れ入りました、大貳が之を聽くと、少しも騒ぐ氣色なく、靜に其處に立出で 大「何と言はつしやる、上意……ハ、ア御用だ、上御用筋とあらば速に大貳罷り越す、決して各位騒ぎ立つてはいかぬ、靜に致さつしやい、手向ひは決して致さぬ御同道致すから神妙になさい」反對で餘り落着拂て居るので、役人が底氣味惡く、思す後へ斯う退つた。衣類を改まして、山縣大貳が「イザ御同行致さう、御繩を戴でおらう」と言つて惡びれました氣色もなく大貳に於ては奉行所へ引立られる、茲で黨中の者が彼處で三人此處で五人、バタ〳〵召捕になる、竹内式部は早くも之を知て姿を隱してしまつた。そこで翌年八月二十日、此黨類の者は悉く處刑が濟んで、山縣大貳は鈴ケ森に於て獄門と云ふ事になり、訴人をした三人は遠島を仰せ付けられ、織田美濃守此御方は到頭蟄居を仰せ付けられ、國換へに相成りまして、吉田玄蕃を始めとして津田賴母、拓植源四郎、此一味の人は皆それ〳〵處分に相成りましたが、事が天朝に對して忠を勵む、勤王と云ふ名義がございますから、公儀に於ても成べく罪は輕く穩便に計らひました。そこで竹内式部は姿を變へて信州諏訪へ參りまして、諏訪の湖水邊に閑靜なる家を求め此處に足を留めて生涯此處に終つた。尤も長壽を保ちまして九十餘歲まで存命であつた、されば大貳右門等は茲に德川家の處分を受て刑場の露と消ひましたが、元と勤王の大義を企つた者でございますから後に此二人は天朝に於て悉く御賞美に相成りました。それは後日の花物語り、此竹内式部、天龍道人と云つて信州諏訪に閑居を致した。前回言上致しました髙山彦九郎が此竹内式部の許へ訪れまして長らく足を留め竹内式部の勤王の志壯んなるを殊の外喜んで其教を聽く、此竹内式部も自分はもう取る年だ、血氣壯んの髙山彦九郎、己が志を此人に繼がせたいと云ふので頻りに勤王の大義を說聽かせた、されば早く言へば髙山彦九郎は竹内式部の生れ代りと云ふやうなもの此彦九郎が中國へ參りまして、有名の菅茶山と云ふ先生を訪れまして互に胸襟を開いて頻りに古今を談じ專ら樂んで居ります。と或一日大勢集りまして、此頃室鳩巣と云ふ勤王の大學者が駿臺雜話と云ふ書物を著はした、其本を大勢で批評致して居ります 甲「どうだい此室先生が書いた唐土の孔明と日本の楠の論說があるが恐入つたものだ、どうも鳩巣先生などの仰有る所は殆ど感服を致す 乙「ホヽウどう云ふ譯だ、唐で孔明日本で楠、子供も言ふ話だ、何方も天下の器量人だがどう云ふ說だ 甲「なにサ、蜀の諸葛亮孔明は實に天下無雙の才子だ、玄德が雪中三度草廬を訪づれ、是が爲に漸く廬を出て、天下三分の計を立つて玄德を助けて長く戰をした、孔明の英名は和漢兩朝に轟き渡つて大打つ童でも之を知つて居る、日本の楠は後醍醐天皇が召される、直に御受をして出た、どうも餘り物が早いからいかぬ愈々と云ふ時には新田足利の下に附けられ、それ程用ゐられなかつたと云ふのは詰り餘り輕卒だからだ、孔明の如く三度も顧みを受けてそれから出掛けるやうでなくてはいかぬ、どうも楠は孔明に較べると貫目が輕い、君子重からざれば威ならずだ」と頻りに論じて居る。



京城新報

植民學校

教育機關の不備

國運の隆々たる北米合衆國も殖民によりて建國の基を開かれ、英領濠太剌利亞も殖民によりて今日の隆盛を見る、其他南米諸州及阿弗利加に於ける英獨佛の領土皆然りとなす、要するに過剩の人口を人口稀薄の邦土に移すは自然の數也、斯くして世界の不毛土は拓かれ、潛める富源は開發せらる其間には劣等なる種族は優等なる種族に壓倒せられ、適者は生存繁殖し、不適者は漸次に滅却するが如き悲酸の事なきに非ざるも、こは宇宙の攝理上免る可らざる事とするの外なし、斯の如くして人類は漸次に開明進歩しつゝある也、一面より觀察すれば人口溢れて人口稀薄の地に移り之を開拓しそこに完全なる社會を形成するは人類の義務也、是れ寧ろ宇宙の美妙なる攝理と云ふべき也、然るに人類なるものは同種族相集りて邦土を區別して割據する爲に、其地域の擴張に競爭を生じ、他にそれを先せらるれば侵略とか强奪とかの名を附して之を譏り時には之が爲に力爭するの不幸を見ることあり、斯の如きは明に宇宙の攝理に戻るの兒戯とや云はむ。

殖民は總て生活の必要より來る、若し自已の棲息する邦土にして安樂に生活し得れば、何人か好で異郷に出でゝ艱難辛苦せんや、然るに日本の如き人口過剩土地狹少の島國にありては、一家團欒しき生活をなす能はざるもの少なからず、勢い人口稀少の土地に移りて生活せざる可らず、之れ自然の數にして所謂宇宙の攝理に合するもの也、日本の滿韓移住は此必要に迫られるが爲にして眞に自衞の問題也、此自衞の問題を解決すれば文明の傳播者ともなる也、日本が滿韓に移民を集中するを列國が之を諒とし是認するは之が爲ならんか。

殖民地經營は至難の事業也、殖民の難きにあらず、完全なる殖民地を形成すること頗る至難の業なりとす、北米合衆國も殖民地なりき、白拉兒爾も亞留然丁も殖民地也、トランスバールも殖民地也、公果もチユニスも西比利亞も一の殖民地也、最初よりの移民自身の心懸によりて其氣風に懸隔を生ず、故國の舊慣を離れて形成せらるゝ社會は兎角亂雜に流れ易し、然れども始より完全なる社會を形造らんと心懸るに於ては舊慣に拘泥せざるだけ、より完全なる社會を形成することを得む、滿韓に在住せる我移住邦人は社會組織に就て深く心懸け、殖民地の氣風を善良ならしむることに勗めざる可らず。

殖民地經營……殖民地の氣風を善良ならしむるには子弟の教育に重きを置かざる可らず、現在の所にては邦人の教育機關不備にして畜の如く子弟の教育をなす能はず、民團の中學校設けられたりと雖も規模少にして多數の子弟を抱容する能はず、惟ふに韓國に於ては中學程度の殖民學校を設置するが急務ならむ、之によりて殖民に關する智識を得せしむると共に、新社會を形成して世界に雄飛するの活氣を養成せしむるに至らば、將來滿韓に於ける邦人の經營に甚大なる好影響を來たさむか、殖民學校の設置は大陸經營の先驅者たる在留邦人の將さに注意すべき一の問題ならんと信ず。

東京電報

▲日佛協約の内容

今回成立東京にて調印さるべき淸韓國内商標、意匠、發明著作權に關する日佛相互保護條約の内容は左の如し(十八日午前發)

一、締約國の臣民が他の一方の當該官憲にて特許を受けたる發明登錄を受けし意匠、商標は淸國にても效力あり權利侵害に對する裁判權及び裁判執行權は加害者の所屬國にあり商標の保護は萬國工業所有權保護同盟條約に據る韓人は日本人、佛國所屬地人民は佛國人と見做す

二、此の條約は日佛兩國が治外法權を有する地域にも及ぶ既往侵害行爲は猶豫期間を與へ此の條約の實施をまつ事

▲織物組合と東博

東京織物問屋組合は目下計畫中の東京博覽會に反對すべく運動中なり(同上)

▲商標條約と韓國

日韓司法權委任の結果政府は近く改正さるべき列國との通商條約に對し韓國の領事裁判制度撤退を要すべし其結果同商標條約は淸國以外にて享有するを得べければ此際韓國に於ける特許條約の必要を認めずと當局者は語れり(同上)

▲基隆地方の大風害

臺灣總督府公報に曰く去る十五日臺北基隆地方に大風害ありて被害慘絕を極め民家の全壞せるもの百五十戸半潰家屋百三十六戸浸水家屋五百八戸の多きに達し其他被害擧げて數ふ可からず(同上)

▲韓國の虎疫指定地

内務省は四十二年告示第百〇六號中安東縣地方の下に韓國仁川地方及龍岩浦地方を追加し九月二十一日より實施する旨告示せり(同上)

▲馬山の犯人捕縛

去る十日馬山浦漁業團隊員鈴木松五郎(四五)を殺害したる犯人は同仲間なる千葉縣東葛飾郡浦安村岡本愛之助(三三)なる事其筋にて探知し彼が歸京するや直に捕縛せられたり多數の教唆者ある見込にて十七日午前千葉縣々會議員水產組合理事高井國三郎は拘引せられ戰々恟々たり(十八日)

▲伊勢神宮遷宮式

伊勢神宮御遷宮式は十月二日より六日迄に執行せらるべし參拜者は約五十萬人以上あらん(同上)

▲市町村制改正

市町村制改正案は來期議會の劈頭に提出さるべし(同上)

上海電報

▲リギヨル氏來韓

天主公教會宣教師哲學博士リギヨル氏は滿韓視察旁々同地信徒を訪問すべく二十三日大連に向ふ筈なり(同上)

▲外國觀光團の渡來

在淸國の外國人は韓國觀光團を組織し其一行は獨逸汽船グンタウ號にて十九日上海出發仁川に向ふ可し(十八日午前)

伯林電報

▲露國の國防問題

露國内閣は閣令を以て國防問題は直裁を經ることゝしたり(十八日東京經由)

北京電報

▲海軍の復興計畫

淸國政府は海軍復興計畫と共に其根據地を威海衞に置くに決し其區域等に關し近く英國公使に交渉する筈なり(十八日)

▲袁世凱學堂建設

袁世凱は河南に大規模の學堂を建設し西洋式の教育を普及せしむる由なり(同上)

雜報

●米輸出入税と當局

韓國に於ける產額は殆んど輸出額の全部を占め韓國の生命は是によりて繫ぎ居る位の重大關係を有するものなり然るに是を日本へ輸出するには多額の費用を要し今其計算を擧ぐれば左の如し

一、叺代	十六錢
二、搗(朝鮮物の下等にて)	四錢
三、荷造費	六錢
四、釜山迄搬出賃(平均)	一圓
五、汽車積卸賃	十二錢
六、輸出税	四十錢
七、大阪迄船賃	二圓三十錢
八、水揚賃	十錢
九、輸入税	一圓六十錢
合計	五圓九十八錢

則ち一石に對し五圓九十八錢の多額を要するを以て米原價八圓とするも日本の市場に上る時は十三圓九十八錢の高價となる譯なり韓米の現況は實に斯かる不利の境遇にあるを以て本年の如く日本米の產額豐穰なるに於ては非常の打擊を蒙り其前途洵に寒心に堪へざるものなり依て當局者は韓米の輸出獎勵と同時に是が救濟方法に關し目下考究中なりと云ふ

●司法制度の豫算

司法權の實施に就ては東京に於て準備委員を設け審議中なるが兩政府共可成速かに實施することゝ決定し裁判所構成法、判檢事任用等は緊急勅令を以て官制と共に近々發布せらるゝ筈なるが司法制度實施に要する豫算は本年度は豫備金中より支出し議會の開會を待ち事後承諾を求め來年度分は更らに豫算に計上する筈なりと(京通)

●船舶法と日本船取締

韓國の船舶法は既に其草案を脱稿し不日閣議に附せらるべき筈なるが是れに就き我が遞信省は韓國に在る日本汽船の保護及取締方に付便宜上韓國と其歩調を同一ならしむるの必要あるを認め之れを統監府に委任する筈なるが船舶の定期檢査等に就きては兩國政府に於て同一の官吏により執行せしむることゝなるべく隨て統監府と韓國政府とは該問題に付目下交渉中なり因に記す日本の帆汽船が殆んど永住的に韓國沿岸にて航海業に從事しつゝある總數は明治四十二年五月末の調査に依れば十噸以上二百噸迄の汽船五十二艘二百石以下の帆船數千四百四十隻にて新義州及濟津は此以外なり

韓人の質問

頃者或韓人が記者を訪ねて來て突然珍らしそうに且つ眞面目くさつて曰く、伊藤前統監と曾禰前統監と何れが眞に豪いのか、伊藤公は東洋一の政治家だと云ふがドーも其爲す所を見ると評判程に豪いとも思へない、曾禰現統監は日本では二流三流の政治家だと云ふが何だか吾々には豪らそうにも見へる、東洋では寡默深沈の人は豪いとしてあるからそう思はれるのであらうが、一般の韓人が現統監には何だか薄氣味惡く思ふて居る樣だ、副統監以來未だ之と云ふ仕事をして居らぬ、而も日本に於ても別段是と云ふ仕事をしたことも聞かぬ、足下の現統監に對する評は如何と、記者答へて曰く、余の現統監評は既に本紙に於て言ひ盡くしたり、今更新たに評するの語はない、矢張り足下と同じく余には未だ賢明の不賢明のれ方とも判斷がつかぬ、豪いか豪くないかは將來をして語らしむるの外はなかろう、現統監が斯く韓人にも邦人にも其眞相が判らぬのは畢竟現統監は曩に教育者に對してヌたくつた詩にある通り人間妙訣有無言にあるのであらう、無言は眞に人間の妙訣であるかも知れぬ、我國の俳句にも『もの言へば脣寒し秋の風』と云ふのがある、足下此意を解せりやと云へばヨボ君只微笑して諾くのみ、是を以て見るも現統監に對しては未だ、韓人等は其眞相を解し得ぬものと見ゆる。

●三審制度採用の決定

別項記載の如く司法權の實施期は愈々確定したるが其裁判所は三審制度を採用することゝなり下級裁判所よりの上級審は悉く高等法院に於て審判せらるゝ筈にて裁判所の數は當分現狀を維持すべしと云ふ

●商業會議聯合會(第四日)

商業會議所聯合會の第五日は昨十八日午後より開會したるが鐵道廳より岡運輸課長、統監府よりは小松書記官、東拓より岩佐理事等何れも臨席して一場の演說を爲し議員の質問等ありて四時散會したりと

●東拓の經營方針(宇佐川總裁の談)

▲模範田の要 既に受取濟みとなれる驛屯土、宮庄土を基とし其附近便宜の地を買收して經營上の聯絡を計る等目下は專ら整理と準備とに多忙を極め居れるが會社が農事經營上最も急務なるは昧蒙なる在來の小作韓人を啓發するの一事即ち是なり元來農民は最も保守的にして日本に於てすら農事改良の漸く進歩し來れるは極めて近時に屬する位なり殊に幼稚なる頭腦を有せる韓民に向つては包裝より農具改良、處理法種子又は作附法等迄萬般の教育を施さゞるべからざるが故に實に難中の難事なり況んや彼等の頑愚なる徒に猜疑の眼を以てのみ之を觀るに於てをや

▲耕作の粗漏 教導の至難なる例之ば作附反別過多の爲め耕作自ら粗漏に流れ容積同一なるも其實質(日本麥一升二百七八十匁の最ありとすれば韓國產は僅に二百匁に過ぎざるが如き)に依り品位に大差あるを覺らず之等は徹頭徹尾實物教育に依らざるべからざるが如きは常に見る所の實例なり

▲周圍の設備 假令農作にして完全の境に入るも交通運輸の設備に缺け米一石に就き一里の運賃廿錢といふ如き其他不完全なる周圍の狀態にては農產物をして市場に於ける商品たらしめんことは到底不可能なり

▲副業の必要 農業には副業を必要とす農閑に繩叺を作り又は他の內職に從ふ如きは是非獎勵せざるべからざる事なるも目下にては之等の販賣機關さへ備はり居らず

▲永久的事業 農と周圍の事情が全く並行せざるを如斯現狀に於て國家的農事經營則ち永久的にして健全なる基礎を造るは決して短日月に待つ可らず例之ば一地域に適當なる種子を選定するにも少くも三年の試驗を要すべく其間又天候其他不慮の障害を免れず農事の試驗は素より一年僅に一回にして三回の試驗成蹟を徵するには三年を費やさゞる可らず農業に於ける事功の速に擧がらざる實に此の如し

▲移民の注意 移民の招來も必要なれども之を實行するには彼等に必要なる經營及び生活上の諸設備を了り安んじて其業に服する樣上述の支障を或程度迄輕減せし後ならざるべからず若し然らずして劈頭先づ移住者を失望せしむるとあらんか他移住者の氣勢を挫くと大なり故に會社は之等に對して頗る慎重なる研究調査を怠らず又其實行も漸次歩を進めん方針なり

▲屯土探定 は土地の肥沃運搬の便利を標準とし且其各道に散在せるは天候及虫水害等に際し被害を部分的ならしめん爲め也

▲社員の修練 第一に必要なるは地方派出社員の韓語に熟し民情に通ずることなるが之に就ては社內に韓語習練風俗及び農事經營に就き研究せしめつゝあり

▲二ケ年の後 要するに全般の施設に手の屆くは上叙幾多の支障困難を排除し大体の準備を整へし後ならざる可らず從て眞個の經營には今后一ヶ年乃至二年を經過せざる可らずと云々(日韓通信)

●商議聯合會宴會

京城商業會議所の主催に係る聯合會議員招待會は一昨十七日午後六時より翡翠樓に於て開會し昨十八日は京城民團役所の晩餐會に臨み今十九日は花月樓にて聯合會が主催の下に輸出米保税問題の運動に功勞ありたる大内代議士及戸叶大日社長の慰勞を兼て石塚總務長官代理、木内、岡の兩次官、鈴木次官代理、中村農務局長等を招待する筈なりと云ふ

●仁川民團招魂祭

來る廿日は磯林大尉以下義勇士の招魂祭日に相當するを以て仁川民團は當日午前十一時より陸海軍墓地に於て莊嚴なる祭式を擧行せらるゝ筈にて尚ほ市中一般國旗を揭げて弔意を表し民團よりは例年の如く煙火を打揚ぐる由

●統監夫人滯京期

目下入京中なる統監夫人は今暫らく滯在せらるゝ趣きなるが聞く處に依れば同夫人今回の渡韓は統監の病氣見舞の爲めなれば正式の招宴又は接待等は總て見合はさるゝ由なりと云ふ

●檢事の部長招待

國分檢事總長、世古檢事長は來京中の警察部長を主賓とし渡邊大審院長、岡內部次官、松井警務局長若林警視總監、內部の各書記官三十四名を十七日花月樓に招待したり

●統監送迎宴會費

過般景福宮に於て開催されたる新舊統監送迎の勅命園遊會費は去る十六日付を以て豫備金中より一萬一千八百三十三圓を支出されたりと云ふ

●坤元節陳賀權停

今十九日は韓皇后の坤元節に相當するも都合に依り陳賀を權停し尚目下惡疫流行中なるを以て問安署名及宮中に於ける賜宴を停止さるべしと

●柤峴驛の移轉期

仁川驛より乘降客數に於て多數を占むる柤峴驛は過般來新築工事中の處略々竣工したるを以て多分來月上旬頃移轉の運びに至るべしと云ふ

●獨國武官の訪問

獨逸陸軍參謀ベジアーシロン氏は去る十六日軍司令部を訪問し夫れより景福宮を參觀したりと云ふ

●國分總長の巡視

國分檢事總長は今十九日南大門發の列車にて大邱に出張し同地方の裁判所を巡視する筈なりと云ふ

●俵學部次官招宴

俵學部次官は廿日各警察部長を主賓とし其他世古檢事長岡次官松井局長等四十餘名を翡翠樓に招待すと

●憲兵の官舍移動

山形憲兵中佐は南山町天眞樓前藥師川少佐跡へ藥師川憲兵少佐は山形中佐跡へ各交代移轉せられたりと

●聯合議員の視察

商業會議所聯合會の各議員は昨十八日午前九時より纛島の園藝模範場に到りて其園藝を視察したりと

●ソンタク孃歸國

ソンタク孃は愈々今十九日午後零時二十分南大門發列車にて仁川に赴き夫れより上海を經て歸國すべしと

公人私人

▲酒井孝德(公州財務事務官)十七日歸任す

▲山岡義五郎(釜山稅關長) 同歸著す

▲川上繁治(平壤手形組合理事) 同大邱へ

▲須藤葉(平壤財務所事務官) 同歸任す

▲喜頭兵一(仁川裁判所判事)十七日入京す

●本日の說教

▲日の出町の說教 日の出町京城基督教會にては午前九時より日曜學校同十時より禮拜說教「靈界の勝者」夜八時より「基督の肖像」と題し米澤牧師の說教ある筈傍聽隨意

▲メソヂスト教會 旭町二丁目メソヂスト教會にては午前九時より日曜學校及聖書研究同十時より禮拜說教自由の靈(山口照平氏)午後八時より感話並に傳道說教地上之天國(曾田嘉伊智氏)傍聽は隨意たるべしと

近事片々

▲韓國 においては馬匹養成を奬勵する必要を認めず從て競馬は絕對に禁止と統監[illegible]

▲馬匹 の養成よりも牛を養成するが經濟的にして便宜也と然り牛の養成を急務とす

▲競馬 は禁止するが上策なれども馬匹の養成を絕對に認めずとはチト極端に過る也

▲日本 に於て一朝有事の際に困るならば韓國にも養成し置き是を間に合せては如何

▲併し 馬を牛に乘換て牛の繁殖に力を盡くせよは面白し韓國耳ならば是が一番可し

▲來年 度に於て三南線耳を布設するに決せりとは事實に非ずと京日云ふ果して眞か

▲御用 紙には事實が既に判然し居らむ左ならば明に敎てたも齒に絹被せるは罪の技だ

▲平安 北道韓人等の請願により農商工部は技師を派遣し畜產の巡回講話を爲さしむ

▲韓人 が請求する迄に氣が付けば畜產も漸次に發達せむ併し政府も之を獎勵せよや

▲間島 總領事永瀧久吉君に決定せりと彼は淸國通なれども其手腕は少々氣遣しき也

▲邦人 を保護し吉會線を布設するには少しは果斷の人を要す永瀧氏果して適任にや

▲大坂 毎日の東露の近狀は所論適切近來の快文字流石は實見せし柯生氏の筆鋒有し

▲就中 ノーワヤウレミヤの對日論の如きは五十年前ムラキヨーフ時代の論とは痛快

▲露人 中には今尚ムラキヨーフ將軍時代の侵略的行動を夢む者あり是が抑誤の基也

▲前の 一進會顧問たる內田硬石君渡韓せりの報來る豈夫乘畯君と同伴ではなからむ

▲或は 杉山ホラ丸君の御使者ならんと評する者もある夫は借置野田平君ドウしたか

▲ハリ マンの後任にはロックフエラー派より入て鐵道を主宰すべしとの說有事實か

▲ハ氏 逝てロ氏の手の石油より鐵道に及ぶ米國新富豪の勢力は驚く可き者ある也

▲加奈 陀政府は合衆國々境より北極迄を我領土と宣言して米國の北極揭旗に對抗す

▲信州 に飯を食はずに働く奇老人あり一日に一度少許の蕎麥を啜る耳夫で頗る壯健

●巡邏船・放拔錨 屢々報導したる(內部及關…)船たる石油發動機船の…り呉に到りて武裝を調へ廿四日麗水に到着の筈なり而して第二群の五隻(內部所屬)

●市場税と徵税額 地方費の重なる財源たる市場税は賣揚高を標準として其百…收額は頗る多額なるものなりと云へり

●判事轉補 左の通り辭令あり

●天氣豫報(自十八日午後六時至十九日午後六時) 北東の風曇後晴

…るを以て…▲…日大阪を出帆し昨十七日讃岐高松へ寄港せし旨電報ありたるが夫より光濟號は鶏王群と行動を共にし歸韓す可と 九月廿七日何れも大阪を拔錨すべき筈にて 一年の損耗高實に百萬圓の上に及び小道の如きも一萬圓を下らざる由なれば之れが徵

▲相談の相談▼
（何でも御相談に應じ升）

◎問 私は今最も有利なる事業を創め樣と思ふのですが僅に七十圓の資本が調達出來ないので困つて居りますが何う云ふ方法かを以て資本家を求むる工夫はありますまいか、損益の豫算も立てゝ有るのですが（壽町生）

◎答 金談は御免蒙る別段此れと云ふ名案はないが本社の無料紹介欄にでも頼んで資本主を求むるより他に方法は無いと思ふが此逆外の事でないからねエ（係）

◎問 小生の知人に年は四十五で頗る着實の人物がありますホンの五六日前渡韓したのですが何家か會計か何かに傭はれ度いと云ふのです人物は私に於て保證致し升少々頑固の方ですから嚴正な會社或は商家に口はありますまいか（吉村生）

◎答 有りましようと思ふが僕には判らぬ、無料紹介欄係宛紹介方申込まれよ尤も貴下の住所を明記して（係）

◎問 私は來年徴兵に適齢の者に御坐候何月迄に差出候はゞ宜敷や御尋ね申上候猶私は祖父祖母には勿論父母にも死別れ妹二人と失明の伯母のみにて近き親戚とては一家も無之私は未成年の事に候へば今に家督相續致さず然るは後見人之れ無き事に御坐候只今にては家もなし財産もなし相續人もなし引受人もなき次第に御坐候へば他より聞く處に依れば檢査を受けずとも可なりとの事又非なりとの事何れが實なるや敎被下度又届ように依つては右の如き次第なれば檢査を免せらるゝ事之れ有るや否や絶對に不可なりとすれば都合も之れ有る事に候へばなり（伺生）

◎答 當地で受驗せられます願書は三月中に差出すこと、如何なる事情ありとも檢査を受けずに濟むことなし、失明の尊親屬あり年少の妹あり双方とも君が養はねば扶養する人がないとあらば或は兵役を延期若くは免除せらるゝことも無しとも限らず併し檢査は受けねば駄目、詳しくは民團役所の兵事係に就て聞合はさるべし（係）

●仁川の虎疫彙報

▲何時終熄の見込なし ▲事務所を増設す 仁川韓人部落に於ける虎疫患者は未だ終熄の模樣なく日と共に病勢激烈を極め尚ほ病毒は漸次花村洞附近より牛角洞、栗木洞方面へ轉ぜんとするの狀態あるにぞ從來の傳染病假事務所一個所にては不便を感ずるに至り一昨日京町に同事務所を増設して豫防消毒に努め居れり

▲永宗島の患者數 檢病的戸口調査の爲め永宗島に出張中の二宮警部一行が一昨夜歸仁語る處に依れば同島に於ける初發以來の患者數は七十五名の多きに上り同島民の過半は虎疫患者たらんとすと云へり

▲通行人檢疫開始 一昨日内洞の酒店殘根石方に永宗島より來泊せし許勸端（三八）と云ふは虎疫に罹り直に假收容所に收容したるが其筋に於ては斯くの如く各韓人部落に病毒散蔓の折柄交通遮斷に努むるは無論昨日より市中の要路四個所に巡査を配置して通行人の檢疫を開始し尚ほ旅客の降乘最も多き杻峴驛にては昨日より檢疫を開始せり

▲檢疫醫の應援來 檢疫醫は目下四名にて防疫に努力し居れるが昨夜更らに新義州より永谷醫師應援の爲め來仁せり

●京城の虎疫猖獗

▲一日五ヶ所の新患者 ▲邦人三人と韓人三人 積善坊工后洞十四統三戸全潤鐘方下婢安姓女（四三）は十七日午前三時虎列拉病に罹り急報に依り西部署小谷松浦兩巡査現場に出張して嚴重取締せしが同人は午後四時過ぎ死亡せしにより消毒埋葬せしむ▲養生坊倉洞二十二統六戸朴千福妻崔姓女（三七）及び長男玉石乙（十七）は十七日午後十二時神吉西部警察醫檢診せし結果眞正虎列拉と確定せるにより消毒の上患者は光熙門外療養所に送致す▲原籍東京府下南多摩郡御方村三千百七十一番地當時京城櫻井町三十六番戸居留古物商渡邊磯吉（三三）は十七日午後二時眞正虎列拉に罹り離隔中▲京城曙町百二十四番戸淸水政一方寄留山口縣平民無職立石佐吉（三三）は十七日午後四時卅分眞正虎列列病と診斷せらる▲原籍德島縣美馬郡半田村三百二十五番地當時京城永樂町八十一番戸居留平民ラムネ行商米澤武八（四二）は去る十四日以來病氣にて自宅加療中の處十七日愈々眞正虎列剌と確定し靑坡病院に送らる

●刑事殺し公判（第二回）

▲僞證罪として拘引さる 山本刑事殺害犯人奥谷悦次津城太八外壹名の第二回公判は昨日午前十一時より仁川理事廳に開廷さる先づ證人京城太平町壹丁目鐵工所藤本德三（二九）妻トク（二五）の兩人に對し奥谷にピストルを貸與せし事に付き取調べありしが同人は曩きに豫審廷にて僞證せし爲め取調後直ちに拘引狀を發せられ其儘留置され次に櫻井町靑木角太郎（三三）及び被告奥谷を訊問し檢事の請求に依り太平町八重咲の酌婦濱田マツ及び辻本象之助、松村初次、辻本刑事水没ヨボ金正植外韓人巡査二名を證人として喚問することゝして閉廷せり當日は信夫理事官、桐原署長等も傍聽席にありたり

●虎疫豫防係員に注意

▲桐原南部署長の訓示 南部警察署長桐原警視は京城市内の虎疫猖獗を極め日々散蔓して益々區域擴大しつゝあるを深く憂慮し極力これが撲滅終熄に盡瘁して殆んど寢食を忘れつゝあるが一昨十七日管内傳染病發生地交通遮斷に直接從事の各員に對し左の訓示を發したり

一、遮斷區域内人員點檢及健康狀態視察は最も緊要なるを以て交代の際は常に嚴重申送るべし
二、生水の飲用使用は絶對に禁ずべし故に毎朝一日分使用の水量を煮沸せしめ置可し
三、蠅は病毒傳播の媒介たるを以て遮斷區域内に於ける蠅群は極力迅速に驅除すべき樣督勵すべし
四、遮斷區域内の住民は非常に不安の念を抱き居るものあるを以て恐惶の念を抱かしめざる樣言動を愼み住宅内に空氣の流通日光の射入等衛生上及健康保持上充分懇諭すると共に一面には慰撫すべし
五、遮斷監視の巡査は日中椅子に腰掛けざる樣注意すべし夜間と雖ども腰掛けに注意すべし

●俗調●

▲虎列拉豫防の歌（下） 魚遊痴史

常は衣服や身を清潔に 家の内外よく掃除して
下水便所や不潔の場所は 豫防消毒忘れちやならぬ
可愛我が兒に寢冷をさすな 若い者には夜遊びさすな
眠り足らねば身体の毒よ 寄席や芝居や縁日なぞの
夥多人出のある其の中は 兎角危險よ傳染病の
惡い媒介し易いところ 汽車や汽船で旅行のときも
旅亭や旅舘に泊つた時も 其處に注意が肝要なるよ
野越へ山越へ海河越へて 遠き異國に來て居るからは
何はさて置き身体が大事 身体病弱ちや何んにも成ぬ
今や虎列拉が彼方此方はやる 油斷めさるな我が同胞よ

●八名の遺族飢に泣く

▲虎列剌死亡者の家庭 仁川濱町三丁目居住の三宅五郎吉と云ふは曩に虎列剌に罹りて死亡したるが同人には遺族八名あり五郎吉の痩腕にて其日〳〵を暮し居たる事とて忽ち生活に困難を來し朝夕の烟さへ揚げ得ざるの境遇に陷入りしかば同地宮町三丁目居住の杉山照觀氏は同遺族の悲慘なる窮境に同情を表し義捐金を募集の上金八圓五十錢白米一斗を寄贈し尚ほ同町の頴原修一郎氏は白米二斗及び食鹽一叺を寄贈したりと

●醉狂の安眠妨害

京城大和町二丁目百廿四番戸居住山形縣士族無職佐藤武治（二十五）大和町二丁目百十八番戸原口源四郎方寄留通信管理局事務員佐多美德（十九）は平素昵懇の間柄なるが一昨十七日午後十二時過ぎ長谷川町二丁目三番戸質屋安藤留吉（四十）方軒下戸板の上にて一寸一杯の筈の處が二人で一升も呷りた果へヤレケとなり管を卷き高聲を發して何時まで經つても切りあぐる模樣なきにぞ隣家の大工某が見兼ねて兩人に夜更けて斯く喧騷を極むるは安眠防害ならずやと暗に退去を迫りしを兩人は何に生意氣なと大に立腹し某に喰つて掛り遂に三人大道にて大立廻りを演じ居る眞最中南署の巡邏の發見する處となり一同を本署に引致して取調べしに前記の次第と判然し厚く說諭を加へて釋放せり

●白晝韓人の追剝

南部會洞住淸商德順福方雇人韓人崔點孫（三十）及同淸人高某の兩人は昨十七日主人の掛金取集めの爲め附近至高運方へ至り全より現金三十四圓及手形四百圓を受取現金は崔手形は高所持の上歸途梨太院（？）に至りし頃通路草原に草刈に從事し居りし二名の韓人現はれ突然鎌を振り翳して崔の頭部に切付所持の現金を奪ひしより高は驚きて逃走したるが其筋にては屆出により犯人を嚴探中なりと

●醉倒の人騷がせ

一昨日の午後十時頃仁川本町四丁目の道路にて俯向に倒れつゝ吐瀉せる大の男あるを探知し若しや時節柄虎列剌患者にあらずやと仁川署より警官は息せき切りて馳け附け取調べたる處同人は松坂町猪又政五郎方に居住せる石工の小川伊平と稱ふ者にして同夜花町の某飲食店にて鱈腹飲酒の結果へベレケに醉潰れ斯くの次第と判明せしかば說諭の上歸宅せしめたりと

●小使の毆打騷ぎ

京城太平町二丁目三番戸居留通信管理局小使小藤磯吉（三〇）は一昨十七日午後七時太平町通行の際西部養生坊陽洞十三統十戸韓人朴聖模（四〇）が誤つて磯吉に衝突したるを大に怒り平手を以て朴の右眼部をしたゝか毆打して輕微なる負傷を負せたるを訴に依り西部署にて双方を取調たるも事件輕微なれば說諭の上磯吉に相當治療代を出さしめて示談となる

●敷島遊廓の病女郎

仁川敷島遊廓の檢梅は一昨日行はれたるが受檢娼妓八十名の内高砂の東京は退院し第二朝日の笑鶴は入院し自宅休業者は朝日の頓子、一山の小奴日進の政榮、敷支の巴は咽喉洗滌を要す由

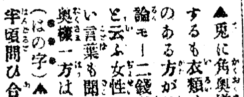
●仁川避病院の現況

仁川避病院の現在入院患者數を聞くに虎列剌一名、赤痢五名行旅病者一名計七名なりと云ふ

吉凶鑑

本町五丁目 三二館判斷

九月十九日（舊八月五日）六白赤口壬午れさん
△一白●● 利潤多し多少の投機的及構謀的行爲も効を遂ぐ△二黑●● 吉凶相半す常務に關することゝ差障なし訴訟談判は讓歩に利有り△三碧●● 離間中絶爭論を愼しむべし他人と決算上に紛爭起り易し△四綠●● 盜難横領散財事起らん用意なるべし伐木冶金の業には吉△五黃●● 業務官職上に疎虞解怠より失錯あり△六白● 受任受託を引受くるなかれ間違損毫生ず△七赤● 中傷誣妄に罹らん爭論喧嘩を戒しむ△八白●● 胸中の鬱滯せる不平怒恨を發し破れは生ずることあり△九紫● 近親の身上に付き損失痛心あり冶金採鑛には吉
右は概括的判斷なり各人格別に付ては直接同舘の鑑定を請はる可し



◀平民文庫▶

▲兎に角奥樣だ體は『ただ』とするも衣類は五六十圓の價値のある方が往來で擔軍との口論モー二錢負けろと云ふ遣らぬと云ふ女性の身のあられもない言葉も聞ゆる一方は汚ない擔軍、吁、奥樣一方は立派な（はの字）▲十六日午前十一時半頃問ひ合はせたい事が有たので農商工部の五百二十三番を呼び出した所が生憎電話が遠いので二度計り聞き返したら尖がり聲で叱り附けられた女の聲の樣でしたが平民と常に密接の關係ある役所の電話係なぞはモ少し優しく口を開いて貰いたい、文句を云ふのぢやない、れ願ひでムいます（百姓）▲僕が投書した長谷川町一番の酌婦云々以下を抹消した文庫記者さんの扱ひぶり公平不偏花も實もある粹なれ捌き（西小門人）▲慚愧慚愧は一寸此方へ拜借、感服せらるゝ程のことは有ません實は其の筋の計畫に邪魔になると思つたからです（係）▲鐘路通り永井辯護士の宅に度々通ふた京城看護婦會の某看護婦前記辯護士の韓人某通譯に金が目的で近接したのか知らないが金は傭人位に有らふ筈なく慾張りすると馬鹿を見ると悟つたかして此の頃は關係がない樣だ此の奴姦護婦奴（天眼生）▲產婆中での山師連が又何にやら企んでるが不親切なる現金主義の彼れ等に滿足の事が出來るか、僕は曾て彼れ等にトリアゲて貰つた愛兒が死んだ時用があつて其の一人の玄關に立つて一寸面會したいと云つたら亭主の主事が出て用を聞き取つて次の間に入つたが又出て來て夫れは私の方では出來ませんと申しますと云つたなり玄關から放逐した出來ないから出來ないと斷るのは當然だが淺からぬ關係のある乳兒が死んだと云ふのだから兎に角出て來てマアれ愁傷しい位の挨拶をする程の心掛けは有るべきだ然るに彼等には之れが無いのみか子を喪ふて愁傷の胸を抱けるその親を吹き曝しの玄關に立たせて唐褸越しでの應對、僕は常に彼れを呪ふて居るのだ（紅）▲呪ふのは君の自由だが呪ふが故に仲傷の愚に出る勿れ（小僧）▲近頃京城日報社の前の西洋館に元〇〇の神さんだと云ふ女が押しつけに女中になつて居ながら誰にも彼れにも大意張に意張て居るが少々氣を付けぬと鐵拳を見舞ふぞ（知拠生）

十七日（華氏）最低温度 六四、八

